

みんなで助け合い 家族の絆キャンプ

平成 25 年 9 月 21 日（土）～22 日（日）1 泊 2 日



I 事業の背景（必要性）

国立青少年教育振興機構の調査報告によると、子どもの頃に自然体験や友だちとの遊びなどの体験が豊富な人ほど、物事に対する関心・意欲や社会的規範意識が高くなる傾向があり、今後、自然体験を含む様々な体験を通して、地域や家族とのかかわりを推進していく取り組みを充実していくことが重要であるとしている。

しかしながら、社会やライフスタイルの変化により子どもたちの自然体験は減少しており問題視されている。また、東日本大震災以降、防災教育の必要性が改めて提唱されており、家族で災害に対する意識を高めていく必要がある。

そこで、普段、キャンプなどに出かけることがない家族を想定し、キャンプ初心者向けのプログラムを計画し、その中に家族で災害に対する備えについて考える内容の活動プログラムを組み込んだものを提供することとした。自然の中で遊んだり、生活したりすることの楽しさを家族で一緒に味わうとともに、家族がふれあい・絆を深めること、そして保護者に自然体験の大切さを改めて認識してもらい、今後、子どもたちに豊富な体験をさせようという意識を持ってもらうこと、また、日頃から災害に対し高い意識を持ってもらうことをねらいとして本事業を企画した。

II 事業の概要

1. 趣 旨

- (1) 家族でテント泊や野外炊事などの活動をする中で、自然体験活動に対する関心を高めるとともに、家族のふれあいを深め、家族の絆の大切さを再確認することを目的としている。また、災害に対する備えを家族で考える機会を活動プログラムに組み込み、防災力の向上を目指す。
- (2) ボランティア養成研修を修了した法人ボランティアの実践の場とする。

2. 参加者

- (1) 対象・募集人数 小学生（1～6年生）とその家族 15 家族（50 名程度）
- (2) 参加状況
<内訳>

人 数	男 子	女 子	合 計
1 年 生	2	3	5
2 年 生	1	2	3
3 年 生	1	2	3
4 年 生	1		1
5 年 生		4	4
6 年 生		1	1
中学 1 年 生	1		1
保 護 者	13	12	25
幼 児	6	1	7
合 計	25	25	50

<参加地域>

	家族数	人数
御殿場市	1	4
裾野市	7	26
小山町	1	2
沼津市	1	2
浜松市	1	4
神奈川県	2	8
東京都	1	4
合計	14	50

(3) 広報の方法

- ① 募集チラシを作成（申込書添付）
- ② 御殿場市及び近隣〔JR 御殿場線沿線〕の小学校に絞り、1学級あたり5枚の割合で学校ごとに配付した。
- ③ 報道機関への事業掲載依頼
- ④ 交流の家ホームページに掲載

3. 日 程

21日 (土)	12:45 13:15 13:30 14:00				15:50	18:50	20:00	21:00
	受付	開 会 式	レ ク リ エ ー シ ョ ン	親子でふれあおう (体操・活動など)	(ポトフ風煮込み) クッキング	アウトドア	シャワー	夜の選択 プログラム
22日 (日)	7:00	7:30	8:30 9:15	14:00				
	起床	朝のエクササイズ (ホットドック)	アウトドア クッキング	防災フード・ハンティン グ・ラリー & アウトドアクッキング (手作りピザ)	閉 所 式			

4. 内 容 (活動の様子)

(1) 「レクリエーション」

緊張感をほぐし和やかな雰囲気作りをするとともに、家族で楽しくふれあう場としてレクリエーションを行った。内容は「何人乗れるか?」(新聞の上に家族みんなで乗り、新聞紙の大きさを段々小さくしていく)を実施した。



【親子でリラックス呼吸の様子】

(2) 「親子でふれあおう」

- ① 《体操編》家族で簡単にできるストレス軽減エクササイズを学び、家族で緊張から解き放たれる心地良い感覚を味わった。内容は「親子で肩たたき」「親子でリラックス呼吸」「親子で上半身リラックス」を行った。
- ② 《活動編》所内の気に入った自然の植物の花や葉を見つけ、ハンマーでカバンに模様をつけオリジナルバックを作



【お気に入りの花で模様をつける親子】

った。

(3)「野外炊事」

- ① 夕食は「シシカバブ」と「ポトフ風煮込み」を作った。自分たちで火をおこして、かまどで焼く・煮込む体験をした。家族の絆を大切にするため、炊事はすべて家族単位で実施した。
- ② 朝食は「牛乳パックでホットドッグ」を行い、牛乳パックに火をつけて温めたほっかほっかのホットドッグを食した。



【野外炊事の様子】

(4)「夜の選択活動プログラム」

家族で「ナイトハイク」か「星座観察」のどちらかを選択し、夜の自然体験を行った。

- ① ナイトハイクでは、暗闇の中で虫の鳴き声に耳を澄ましたり、月明かりと懐中電灯を頼りにポイントで出された課題を家族で協力してクリアしたりし、自然の中での活動を楽しんだ。
- ② 星座観察では、毛布に寝転がり夜空の月を眺めたり、望遠鏡や星座早見版を使い星座を観察したりした。また、日本ではウサギが餅をついているように見える月の姿が、他の国々の人々はどうのように見ているかを資料で学び、自然の美しさを味わうだけでなく、文化の違いも扱い家族の好奇心をかき立てる工夫をした。



【星座観察の様子】



(5)「防災フード・ハンティング・ラリー」 & 「ピザ作り」

【防災フード・ハンティング・ラリーとは？】

「ハンティングマップ」(施設内の地図)と「指令書」(施設内のある場所を表す写真)をたよりに食材カードのある場所に行き、防災に関する課題をクリアし手に入れたカードと本物の食材を交換することができるラリーゲームです。

- ① 昼食のピザ作りの食材を手に入れるため、家族で施設内を探検し、課題をクリアして食材カードを手に入れた。探検の前には、家族の絆を深める場として、作戦タイムをとった。
- ② 時間になったら、手に入れた食材カードを本物の食材に交換し、家族ごとにピザ作りをした。



【食材カードを手に入れるための課題「水を確保せよ」に取り組んでいる様子】



【食材カードをすべて獲得】

5. 評価

(1) 評価の方法

保護者（各家庭ごと）、小学生（各家庭1名）にアンケートの実施

(2) 結果

① 保護者アンケートの結果（対象：14家族）

ア. 事業全体を通しての満足度

満足・・・・・・・・・・13家族（93%）

やや満足・・・・・・・・・・1家族（7%）

- ・【満足】キャンプを経験したことがなかったので、キャンプに挑戦するには適していると思い参加しました。自分たちでたくさんの初めての経験ができ、1泊2日では足りないくらい楽しめました。

イ. それぞれの活動プログラムの満足度

a) 親子でふれあおう 体操編

満足・・・・・・・・・・5家族（36%）

やや満足・・・・・・・・・・9家族（64%）

- ・【満足】自然の中で体を動かし、とても良い気分になりました。
- ・【やや満足】少し難しかった、でも楽しかった。

b) 親子でふれあおう 活動編

満足・・・・・・・・・・3家族（21.5%）

やや満足・・・・・・・・・・8家族（57%）

やや不満足・・・・・・・・・・3家族（21.5%）

- ・【満足】子ども達がとても楽しくやっていました。
- ・【やや満足】植物の色がバッグにつきにくい。マジックが使えたらよかった。
- ・【やや不満足】色がうまく出なかったのと、バッグの使い道がありません。

c) 野外炊事

満足・・・・・・・・・・12家族（86%）

やや満足・・・・・・・・・・2家族（14%）

- ・【満足】ボリューム満点、子どもも作れるので良かったです。
- ・【やや満足】普段作らないメニューを知ることができて楽しかったです。でもライスが食べたかった。

d) 選択活動プログラム（ナイトハイク・星座観察）

満足・・・・・・・・・・13家族（93%）

やや満足・・・・・・・・・・1家族（7%）

- ・【満足】月のクレーターも見ることができ、寝転がっての観察楽しかったです。
- ・【やや満足】暗闇の中でナイトハイク楽しかったです。

e) 防災フード・ハンティング・ラリー

満足・・・・・・・・・・10家族（71%）

やや満足・・・・・・・・・・4家族（29%）

- ・【満足】防災フードハンティングラリーでは、食材カードを探すのも楽しかったし防災のことも楽しく学びました。
- ・【やや満足】小さい子どもには少し大変な広さでした。

② 小学生アンケートの結果（対象：14名）

ア. 今回のキャンプは楽しかったか。

とても楽しかった・・・・・・・・14名（100%）

イ. それぞれの活動プログラムの満足度

a) 親子でふれあおう 体操編

とても楽しかった・・・8名 (57%)

まあまあ楽しかった・・・5名 (36%)

あまり楽しくなかった・・・1名 (7%)

b) 親子でふれあおう 活動編

とても楽しかった・・・9名 (64%)

まあまあ楽しかった・・・4名 (29%)

あまり楽しくなかった・・・1名 (7%)

c) 野外炊事

とても楽しかった・・・12名 (86%)

まあまあ楽しかった・・・2名 (14%)

d) 選択活動プログラム (ナイトハイク・星座観察)

とても楽しかった・・・11名 (79%)

まあまあ楽しかった・・・2名 (14%)

あまり楽しくなかった・・・1名 (7%)

e) 防災フードハンティングラリー

とても楽しかった・・・10名 (71%)

まあまあ楽しかった・・・4名 (29%)

Ⅲ 事業の企画と運営

1. 企画のポイント

- (1) ボランティア養成研修を修了した法人ボランティアの実践の場としての事業でもあることから、ボランティア企画委員会を立ち上げ、ボランティアが主体的に企画・運営に携われる形とした。
- (2) アウトドア初心者の家族でも安心して参加でき、また子どもたちが調理に積極的に関わることができる野外炊事メニューとした。家族で相談しながらできるように詳しい作り方工程表をしおりに入れた。
- (3) 既成活動プログラム「フード・ハンティング・ラリー」に既成活動プログラム「防災ラリー」の要素を組み込み、「防災フード・ハンティング・ラリー」を作成した。災害時や避難所生活を想定し、フード・ハンティング・ラリーを楽しみながらも、家族で災害に対する備えを考える機会を取り入れた。

2. 運営のポイント

(1) ボランティア等の活用

ボランティア13名が中心となり、すべての活動プログラムを運営した。ボランティアが職員のサポートに入るのではなく、ボランティアが中心となり、進行・家族支援・準備のすべてに責任を持って行った。また、準備担当ボランティアが活動の準備を行うことで、参加者の活動時間を確保した。

(2) 家族支援の心構え

家族で活動している場を大切にし、安全・安心を提供することを中心に支援を行うようにした。

3. 指導のポイント

当日配布のしおりには、火の起こし方・シシカバブの作り方・牛乳パックでホットドッグ・手作りピザの作り方などを写真入りで詳しく説明し、自分たちで活動できるようにした。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ① キャンプ初心者を対象としたため、参加者にキャンプ1週間前に電話でキャンプをするにあたっての不安等があるかを聞き対応した。そのため参加者は安心して当日を迎えることができた。
- ② 小さい子どもが参加する事業のため、夜の選択プログラム（星座観察・ナイトハイク）は開始時間を決めずに20時から21時の間で家族の都合で参加できるようにした。そのため、慌てることなく、余裕を持って家族のペースで参加でき、選択プログラムを楽しむことができた。
- ③ 閉会式で、家族全員が活動中の家族の写真に思い出を書くことで、家族でキャンプの振り返りをすることができた。また、『体験・遊びナビゲーター（国立青少年教育機構）』を配布すると、実際に朝食で作った「牛乳パックでホットドッグ」のページを興味深く見たり、家族で「〇〇はおもしろそうだね」など話し合っている姿が見られたりした。「体験の風を起こそう」運動を推進する上で有効な配布の仕方であった。
- ④ ボランティアが成長していくためのよい実践の場とすることができた。



【家族で写真に思い出記入】

+

【「体験・遊びナビゲーター」を家族で読んでいる様子】

(2) 課題

① ボランティアの育成について

参加者からはボランティアが子どもの面倒をみてくれたことに対する感謝の言葉が多く聞かれた。しかし、ボランティアの中には家族に対しての支援をどのようにしてよいか戸惑っている姿も時折見られた。今後、家族とのかかわりを深める適切な支援方法をボランティア養成研修だけでなく、さまざまな形で研修する機会を設ける必要がある。

② 場の設定について

小さな子どもが参加することを考え、すべての活動において時間的な余裕をもったスケジュールにする等の工夫が必要である。